JAPAN RUSHING は「黒船」の再来？

アップル社の円建て起債

5 月 27 日の日経新聞の一面にアップルが日本で 2,000 億円の円建ての起債を行うとありました。流石ですね。同じ「日本買い」でも、外国人旅行者の「爆買い」とは違ってインパクトがあります。また、バブル華やかなりし頃、アメリカのシンボル的な高層ビルを買ってアメリカ人の顰蹙を買ったことがあります。それと較べると遥かにスマートです。

「無利子に近い金利で、80 円/＄から見れば 120 円/＄と大幅な円安のこの時期に円ベースで起債（借金）する。ほとんど無利子で借りて寝かしておくだけで、80 円/＄に戻ればドル換算で 1,000 億円儲かる。もちろん使い道があれば、もっと稼ぐことも可能だ」と考えられます。

日経ビジネスの『JAPAN RUSHING』

また、5 月 25 日の日経ビジネス誌には「『JAPAN RUSHING－世界の企業は日本を目指す』と題する特集がありました。ちょっと文章を引用させていただきますと、「経済は成熟し、少子高齢化で人口は減り、国家財政も大赤字――。そんな「明日なき国」日本になぜか今、世界中の企業が殺到している。中国などアジアの台頭による「Japan Passing（日本を素通り）」から「Japan Rushing（日本へ殺到）」へ。なぜ、彼らは今さら日本を目指すのか。その背景には、日本人も気付いていないニッポンの魅力がある」と言うことです。

この特集の内容を要約すれば、「日本は課題先進国であり、課題を解決することのできる技術力を持っており、人材も持っている。日本の課題は、近い将来の先進国や発展途上国の課題となる。日本で商品開発し、成功すれば、その商品を夫々の国向けに少しアレンジするだけでビッグ・ビジネスになる」と言うことになります。

この2つの記事を重ね合わせると

こんなストーリーも描くことができます。

「円建て起債で 2000 億円を集め、日本産業・文化研究所(仮称)を、東京郊外に創設し、日本の飛び切り優秀な研究者を高給で雇う。そして、日本の課題を日本人のテクストで分析させ、日本の大学等の研究機関、企業の技術データベースを作成し、最適解を研究させる。課題解決に必要な商品を数年で作り上げ、試作、販売する。市場の評価を見ながら、日本あるいは中国、台湾等の企業に委託生産、あるいはライセンス生産させる。その後は世界展開する」

要するに、日本のお金で、日本人を雇って、日本の抱える課題を解決し、それによって得られる利益で、グローバル展開し、莫大な利益を稼ぐという構想です。

他人の褌で相撲を取るような話ですが、この場合は相撲取りも土俵も興行も全て他人で興行収入が得られるという素晴らしいストーリーです。

目覚めよ、ニッポン

「金が金を呼ぶ」

ピケティが言うように、何もしないでも金持ちはもっと金持ちになり、庶民がセッセトお金を貯めても格差が広がってしまう世の中です。大金持ちともなれば金の使い方が自然と身についているのでしょう。発想からして違うのでしょうね。

これから、もっと外国の大金持ち企業による円建て起債が増えるのではないかと心配されます。

日本がコツコツと貯めてきた国富の流失が心配になります。